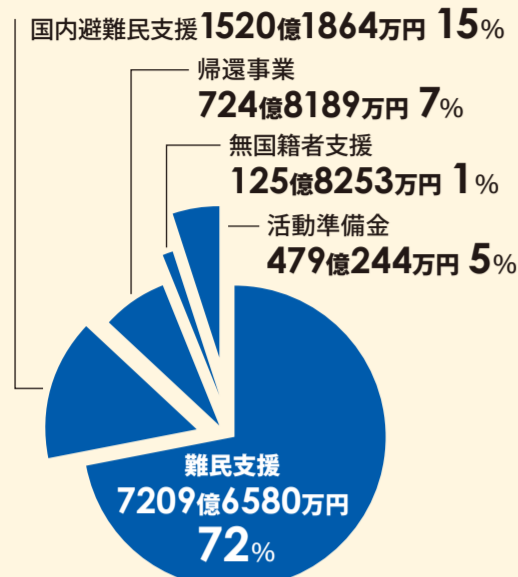


UNHCR支援対象者数と必要予算[2022年度]

全世界の支援対象者数 — 1億260万人
必要総予算 — 9580億4885万円



※1米ドル=112円換算
出典: UNHCR GLOBAL APPEAL 2022 (2021年11月発表) P29

2022年も厳しい資金不足が予測されます

支援対象者の増加を受けてより多くの活動資金が必要とされる中、2021年は活動資金の調達率は47%程度と見込まれています。

2021年度必要総予算 — 1兆357億7600万円
2021年度調達見込み — 4878億7200万円

2021年度 調達率 47%

(2021年10月時点 / 1米ドル=112円換算)

出典: <https://reporting.unhcr.org/financial>

活動国 — 132か国
事務所 — 520か所
職員 — 1万7878名
※委託含む
出典: Global Report 2020 (2021年6月発表) P8

アメリカ

難民の数ではシリアに次ぐ世界第2位になったベネズエラのみならず、治安悪化や自然災害に苦しむエルサルバドルやグアテマラやホンジュラス、政情不安を抱えるニカラグア……と、中南米各地で多くの人が国外に逃れています。

助けを必要とする人々に確実に援助の手が届くよう、UNHCRは関係各国の政府、民間セクター、地域コミュニティ、パートナー団体の力を結集して、活動を展開します。

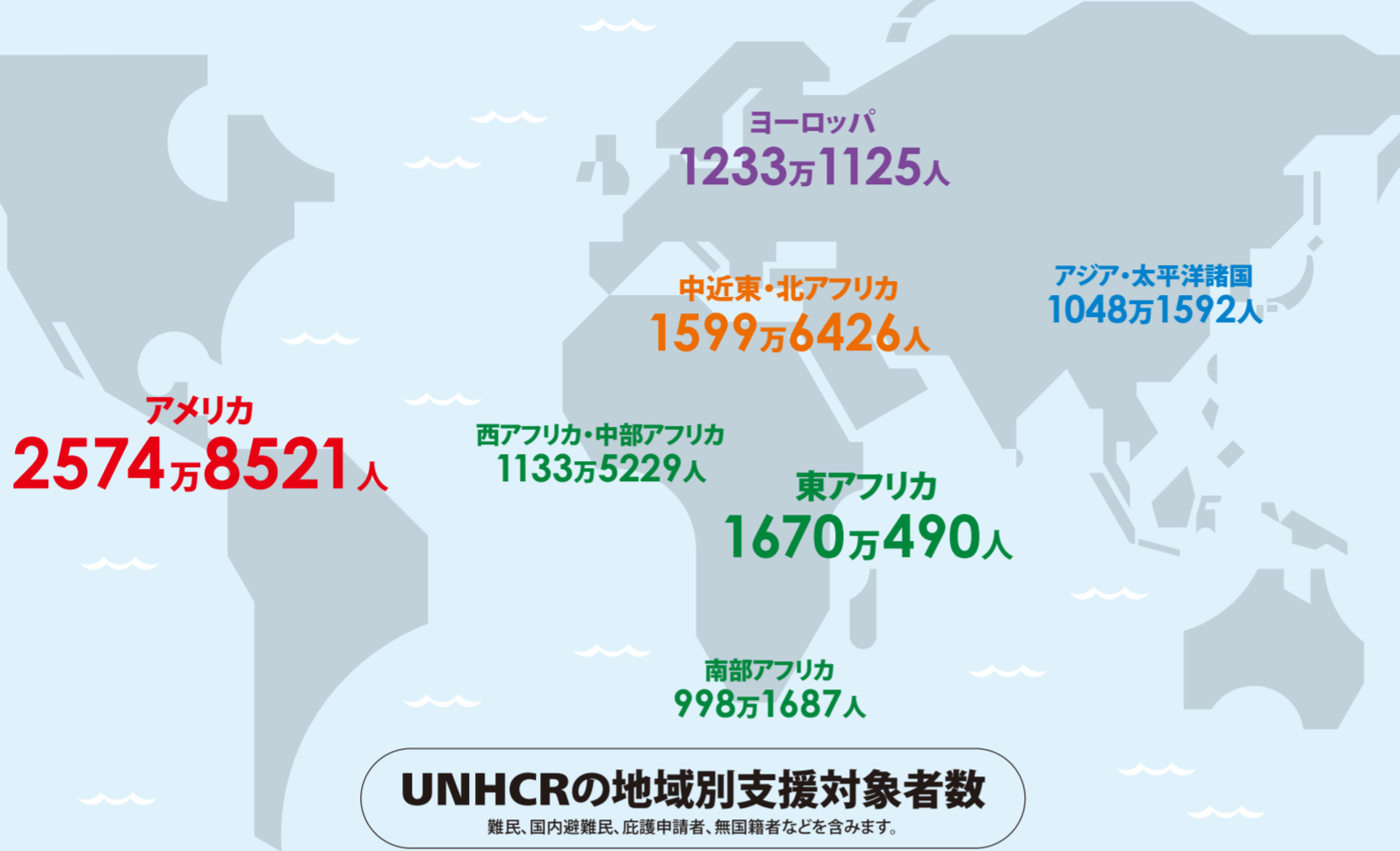


【コロンビア/支援センター】ベネズエラとの国境の町マイカオ。ベネズエラからの避難民が集まるこの町にUNHCRが建てた支援センター。子ども、高齢者など特に支援が必要な脆弱な立場の人たちに支援を提供しています。

UNHCRの難民援助活動2022

～UNHCR年次報告書「グローバル・アピール2022」(2021年11月発表)より～

年初にあたり、UNHCRの公式文書『グローバル・アピール2022』より2022年のUNHCRの難民援助活動計画についてお伝えします。



UNHCRの地域別支援対象者数

難民、国内避難民、応援申請者、無国籍者などを含みます。

西アフリカ・中部アフリカ

中央サヘル、中央アフリカ、チャド湖流域、カメルーンでの紛争に加え、異常気象の増加、新型コロナの影響で避難民は極度の貧困や食料不足の危機にあります。

中央サヘル、チャド湖流域では人道活動従事者でさえ武装集団の無差別攻撃の対象になりうる難しい状況ですが、UNHCRは難民・国内避難民の権利の尊重を関係各国に訴えと共に、関係各所と連携して危機管理計画を策定し、新型コロナ対策などニーズに応じて柔軟に対応していきます。



【ナイジェリア/自立支援】カメルーン難民のローランドさん(右)。UNHCRの自立支援で靴の技術を学び、妻イブリンさんと2人で靴屋さんを開きました。自身の車いすで行きやすい場所にお店の移転を計画しています。

南部アフリカ

過去3年間に、UNHCRの支援対象者は約60%増加。その86%はコンゴ民主共和国とモザンビーク北部の国内避難民です。

自然災害や新型コロナがこの地域での援助活動を難しくしています。UNHCRは、国レベルでの自然災害時の緊急対応計画を手助けすると共に、新型コロナ対策のワクチン接種の促進、女性や子どもの保護の強化に加え、気候変動対策としての持続可能エネルギーの促進など長期的に持続可能な解決策も模索していきます。



【モザンビーク/緊急援助物資】2021年、北部で紛争が起り大勢の人が国内で緊急避難を余儀なくされました。UNHCRから緊急援助物資を受け取った国内避難民の家族。

ヨーロッパ

陸路・海路でヨーロッパを目指す難民の数は、受け入れに消極的な傾向が強まる中、当面は大幅に増えることはない予測されています。

しかし、沿岸地域での受け入れシステムの改善を始め、解決しなければならない問題は山積み。レスキュー体制の整備や、子ども及びジェンダーに基づく暴力の被害者の優先的保護、すでにヨーロッパで暮らす難民支援の拡充など、関係各国への働きかけも急がれます。



【ギリシャ/現金給付支援】UNHCRの現金給付支援を受けることになったソマリア難民のソフィア・アフメドさん(26歳)。「言葉を身に付けて仕事に早く就きたいです」

中近東・北アフリカ

終わりの見えない紛争と経済の低迷に、新型コロナウイルス感染症の流行が追い打ちをかけ、非常に深刻な状況にある中近東・北アフリカ。シリアやイエメン、イラクやレバノンでは、多数の難民・国内避難民が生計を立てる手段を失って困窮するなど、これまで以上に脆弱な状態に置かれています。

UNHCRは彼らの安全を確保し、長期的な解決策を探りつつ、引き続き大規模かつ多岐にわたる援助活動を展開します。



【イエメン/シェルター支援】避難民キャンプでシェルターの前に座る国内避難民のファティマさんとお孫さん。手足が不自由なファティマさんも戦間に巻き込まれて避難せざるを得ませんでした。

東アフリカ

エチオピア北部の紛争を筆頭にスーダン、南スーダン、ソマリアなど、多くの国が火種を抱える東アフリカ。多数の国内避難民を抱える経済的に脆弱で政治的に不安定な近隣諸国が、大量の難民を受け入れています。新型コロナ禍も深刻です。

2022年UNHCRは新型コロナ禍による経済ダメージの緩和、教育・自立支援・水・衛生用品などの提供と強化を継続。関係各国との対話を通じて保護活動も強化します。



【スーダン】避難先のスーダンの難民キャンプでお店を開いたエチオピア難民スラファエルさん(54歳)。生き別れの自分の子どもを思い、よく子ども達にお菓子をあげるそう。最近、UNHCRはスラファエルさんの家族を探し当てました。

アジア・太平洋諸国

アジア・太平洋地区でのUNHCRの活動の主眼は、今年も引き続きアフガニスタンとミャンマー。

アフガニスタンでは人道的状況が悪化しており、シェルターの提供から現金給付支援まで多角的な対応が国内外で必要とされます。またミャンマーについては、ロヒンギャ難民だけでなく、昨年の武力衝突後の混乱の中で新たに生まれている難民・国内避難民の援助も、喫緊の課題です。



【パキスタン/教育支援】UNHCRの支援により、パキスタンの公立高校で勉強するアフガン難民の男子たち。写真は英語の授業を受けているところ。

皆様のご支援はUNHCRを通して難民に届いています

～UNHCR年次報告書「グローバル・レポート2020」(2021年6月発表)より～

2020年のUNHCRの援助活動の成果の一部を数字でご紹介します



2020年12月、チリ。コロンビアからの避難民に食料を届ける UNHCR職員と地元のパートナー団体の職員。

緊急援助出動回数 319回

UNHCRは、緊急事態の発生から72時間以内に援助を手配できる体制を常時維持しています。2020年にはコートジボワールやモザンビークなどへ合計319回出動し、40億3200万円相当の緊急援助物資を届けました。
※1米ドル=112円換算

小学校に通うことができた 171万8955人 難民の子ども達

710万人の学齢期の子どもたちがUNHCRの保護下にあった2020年、各国政府やパートナー団体の協力のもと、このうち小学生については対象年齢の子どもの77%にあたる171万8955人が就学。また中学・高校には、過去最多の17万48人が通うことができました。

国籍を取得できた無国籍者 6万3200人

UNHCRのサポートのもとに、多数の難民受け入れ国が法改正を行なうなどした2020年、無国籍状態にあった6万3200人が国籍を取得。就労や教育ほか基本的権利を享受できるようになりました。

UNHCRが生体認証で難民登録した人数 920万人

現在ではUNHCRの難民認定の核を担っている生体認証によって、2020年の1年間に920万人が新たに難民と認定されました。新型コロナウィルス感染症の流行を受け、非接触型の認証システムも導入。

安全な水の提供 25リットル (1人あたり / 1日平均)

新型コロナウイルス感染症の流行で水の供給の重要性が高まり、UNHCRは手洗い場の設置に取り組みと共に、より多くの量の安全な水の供給に努めました。その結果、1人あたり1日平均25リットルを支援対象者に供給することができました(2019年は21リットル)。

現金給付支援の提供 857万人

難民が命をつなぐために必要最低限の金額を現金で支給し、それぞれのニーズに合わせて使うことができる現金給付支援。給付方法の電子化が進むに従って、その規模は拡大しており、2020年にはコロナ禍の対策もあり857万人に総額778億4000万円の支援を行ないました。

ハウジングユニットで生活する難民の数 24万9000人

UNHCRが用意している多額のシェルターの中でも、ハウジングユニットは耐久性に優れ、様々な天候に対応する仮設住宅です。2020年には、ハウジングユニットで暮らす難民の数は24万9000人を数えました。また新型コロナウィルス感染症対策として過密状態を緩和するため、シェルターを広げるなど改築の支援も行ないました。

必要不可欠な医療サービスの提供 989万人

新型コロナウィルス感染症の流行が難民に新たな試練を突きつける中で、UNHCRは各国政府やパートナー団体と協働し、感染対策や医療インフラを強化。2020年中に、計68か国で生活する989万人が、必要不可欠な医療サービスを受けることができました。

※2021年の数字は2022年6月に発表予定

様々な数字で知る「難民・避難民」

～UNHCR年次報告書「グローバル・トレンドズ2020」(2021年6月発表)より～

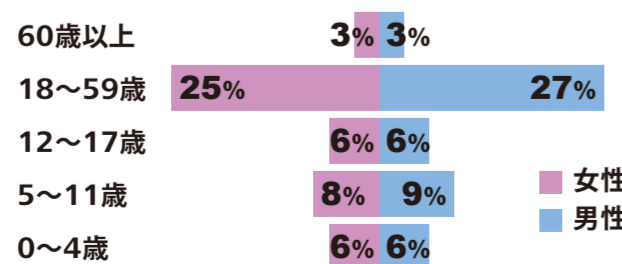
主な出身国

※この5か国で全体の68%

シリア	670万人
ベネズエラ	400万人
アフガニスタン	260万人
南スーダン	220万人
ミャンマー	110万人

紛争や迫害により家を追われた人の年齢・性別

難民・避難民の42%が子どもです。



参考: 子ども=18歳未満 世界の人口の子どもの割合は30%
※数字を加算しても100%にはなりませんのでご了承ください(四捨五入の関係によるもの)

隣国に避難している割合



発展途上国に避難している割合



受け入れ国

※7年連続でトルコが最多数を受け入れ

トルコ	370万人
コロンビア	170万人
パキスタン	140万人
ウガンダ	140万人
ドイツ	120万人

故郷に帰還した国内避難民・難民

国内避難民: 320万人 難民: 25万1000人

第三国定住した難民

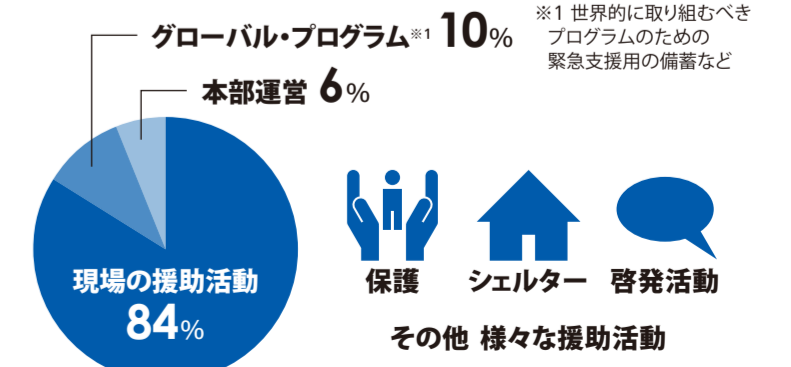
3万4400人

第三国定住: 祖国に戻ることも避難先の国に定住することもできない難民を別の国(第三国)が受け入れるという解決策のひとつ。

※2021年の数字は2022年6月に発表予定

UNHCRへのご寄付の使い途

お預かりする寄付金はUNHCRが保護、シェルター支援、啓発活動など様々な援助活動を行う中で活用されています。UNHCR職員はなるべく難民・避難民や無国籍者の近くで活動を行っており、UNHCR職員の90%が援助活動の現場で働いています。



出典: <https://www.unhcr.org/frequently-asked-questions.html#howdoesunhcrspenddonation>
※より詳細なUNHCRの予算報告についてはUNHCR本部の公式サイト (www.unhcr.org) で公開されている年次報告書「Global Report 2020」(英文)をご覧ください。